

全日本官公庁剣道連盟

第55回剣道大会

日時 令和5年10月22日(日)
会場 東京武道館



(第50回剣道大会を記念し製作した優勝旗)

主催 全日本官公庁剣道連盟 / 後援 公益財団法人 全日本剣道連盟
後援 一般財団法人 東京都剣道連盟



「天鑑無私」の書について

「天に鑑み、私無し」と読みます。

「天道に照らし合わせ、決して私心を以って事にあたらぬ」という、公僕の心構えを表しています。

官公庁剣道は、そのような公務員としての心構えを映した剣道であるべきであるとの考えから、官公庁剣道連盟として象徴的な言葉として大切にしています。

この言葉は、会計検査院長を務められた、第二代会長山崎高先生がよくお話になった言葉で、今日までも連盟旗や記念の手拭を作成しており、おなじみの格調のある、勢いのある見事な書となっています。

競 技 役 員	午前8時前南口に集合し東口から8時入館
選 手 入 館	南口から午前8時10分（観覧席）
選 手 受 付	午前8時30分（第一武道場）
審 判 員	午前8時50分から審判会議 （2階大研修室）

○午前10時以降、第二武道場での稽古はできます。

ご 挨拶

(略 歴)



会 長 林 直 人

昭和23年6月1日(北九州市小倉)生
防衛大学校(土木工学)15期(昭和46年卒)
平成14年 3月 第3師団長
平成15年 7月 陸上幕僚副長
平成16年 8月 西部方面総監
平成31年 2月 全国自衛隊剣道連盟会長退任
令和元年 5月 全日本官公庁剣道連盟会長就任
令和元年 5月 東京官公庁剣道連盟会長就任
令和 5年5月(3期目)全日本官公庁剣道連盟会長
令和 5年5月(3期目)東京官公庁剣道連盟会長

第55回全日本官公庁剣道大会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

官公庁剣道連盟は、新型コロナウイルスの蔓延により、令和二年初頭から大会及び稽古会等が中止となり、暫くの間、その活動は、ほぼ休止状態となっております。が徐々に一定のルールの下、稽古が実施できる環境が回復されるに至り、本年5月を以て政府がコロナの五類移行を決定し、終焉を迎えつつありますことに鑑み、加盟団体各位からの賛同を得て、6月の東京官公庁大会に続き、本大会を実施することになりました。

全日本剣道連盟の「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」及び「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法」に則り、本日、ここに団体戦110チームを超え、個人戦では、180名を超える多くの参加者を得て、今大会が開催できますことに厚く感謝申し上げます。

さて、コロナ蔓延の中で、中国によるロックダウンを背景とする、マスクはじめ半導体製造に至るまでのサプライチェーンの強靱化を必要とすることを体験し、昨年2月24日に開始されたロシアによるウクライナ軍事侵攻が、世界に与えたショックは、測り知れないものであるとともに、我が国周辺がウクライナへの侵攻以前の状況に近似し、今世界で一番危険な地域は日本周辺であるとの認識の下、昨年12月に、戦後の国家としての防衛政策が大きく舵を切ることとなりました。この未曾有の我が国周辺の厳しい安全保障環境下において、防衛省・自衛隊はもとより、国家機関である各省庁、自治体が担う、我が国有事への抑止及び対処の中核としての役割が大きく増大し、国民の注目を集めております。

官公庁の皆様は我が国の中枢として国家の危機抑止、及び対処への道に立ち向かい、それぞれの立場で我が国の真の抑止力たる役割を全うされ、わが国周辺のより安定した環境の醸成が期待されております。そのような厳しい、職場環境にあり、またコロナ禍の制約の影響の残る中であって、これらの厳しい任務を遂行される、我が官公庁剣道連盟の皆様にあっては、日々の稽古の機会の捻出にも苦勞の絶えないところであると思いますが、国民の期待に添う立派な公僕としての矜持を保持するために、是非この機会に、心身ともに充実された「天鑑無私」の剣道の体現を国民の前に披瀝し、その信頼を維持して頂けるよう期待しております。皆様のご健闘をお祈りします。

また、今まで本大会の審判長を長年務めてこられました田原弘徳範士から、本大会は、西川清紀範士に、その労をお願い致しましたので、ご紹介させていただきます。

最後にご来賓、本大会開催にご尽力頂きました皆様方に御礼申し上げます。特に、ガイドラインに沿った試合の運営に関わられる審判の先生方をはじめ大会役員の皆様には、今までと違う運営要領の中での御勞苦に、重ねて感謝申し上げご挨拶と致します。

令和5年10月22日

全日本官公庁剣道連盟 会長 林 直 人

試合実施要項

1. 試合は、全日本剣道連盟試合・審判規則、同細則及び新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な審判法に準拠し行う。
2. 個人戦の試合
3分間三本勝負とする。時間内に勝負が決しない場合は、2分間の延長戦を行う。
延長戦でも勝負が決しない場合は、判定により勝負を決する。
「判定」による勝敗は、技能の優劣を優先し、次いで試合態度の良否とする。
但し、決勝戦は、3分間三本勝負とし時間内に勝負が決しない場合は、延長を2分間ずつ区切り勝敗の決するまでとする。
延長は、2回行って勝敗が決しない場合、3分間の休憩をいれ次の延長に入る。以降同様に行う。
3. 団体戦の試合
3分間三本勝負とし、時間内に勝負が決しない場合は引き分けとする。
団体戦の勝敗は、勝者の多い方を勝ちとする。勝者数が同数の場合は、総本数の多い方を勝ちとする。
総本数が同数の場合は、代表者による代表戦を行う。代表戦は、3分間一本勝負とし、時間内に勝負が決しない場合は、延長を2分間ずつ区切り勝敗の決するまでとする。
延長は、2回行って勝敗が決しない場合、3分間の休憩をいれ次の延長に入る。以降同様に行う。
4. 試合順序
個人戦男子の部、続いて女子の部を決勝まで行なう。(3位決定戦は行なわない。)
個人戦が終了した会場は、団体戦に入る。
但し、進行担当が調整し試合会場の変更を行なう場合はその調整に従う。
5. 試合時間により、昼食時間は設けないので各自調整してとること。
6. 個人戦の表彰は、14時頃を予定する。(試合は、継続する。)

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法 (全日本剣道連盟試合・審判委員会)

【趣旨】

1. 主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドラインの遵守(感染予防)。
2. 不当な「つば(鏢)競り合い」および意図的な「時間空費」や「防御姿勢による接近する行為」の解決。
 - これまでの試合は試合時間の約半分以上が、「つば(鏢)競り合い」に費やされていると言われている。これを改めて、立ち会いの間合からの攻め合いを中心とした試合展開へ移行する。
 - 剣道の試合にとって「勝負」の要素は大事であるが、姑息な勝負の仕方を是正し、反則ギリギリの勝負ではなく真っ向から勝負をする態度を養う。
 - 「つば(鏢)競り合い」については試合者の態度や心の問題が大きく影響し、規則だけで裁くのは困難である。試合者と審判員が共通に理解し、一体となって、良い試合の場を醸成する。

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

意図的な時間空費や防御姿勢(勝負の回避)による相手に接近するような行為は、規則第1条に則り反則を適用する。攻防や打突行動の中で相手と接触した場合、接触した瞬間の引き技や体当たりからの技(発声を含む)を積極的に出す。また、「つば(鏢)競り合い」になった場合は、技が出ない時には速やかに積極的に分かれる。試合者は、審判員の「分かれ」や「止め」の宣告を待つのではなく試合者双方で分かれる努力をする。

「つば(鏢)競り合い」解消に至る時間はおおよそ「一呼吸(目安としておおよそ3秒)」とする。相互に分かれようとしている途中に技を出さない。この場合は技を出しても有効打突とはしない。一方が分かれようとしている時に追い込んで打突する行為や、分かれようと思わせかけて打突する行為は反則を適用する場合がある。また、分かれる途中で相手の竹刀を「叩いたり」「巻いたり」「押さえつけたり」「逆交差」をしない。

(審判員は状況や原因を踏まえた上で合議により判断する)

試合者は、分かれる場合は剣先が完全に触れない位置まで互いに分かれる。分かれる場合は剣先を開いたり、下げて分かれる。

「つば(鏢)競り合い」を解消する場合は双方がバラバラに下がらない。また、双方が徐々に下がるのではなく、正しい「つば(鏢)競り合い」から鏢と鏢で競り合う(押し合う)力を利用して一気に下る。

(本大会に適用)

- 本大会では、選手は試合中に口を覆うシールドの着用を必須とし、マスクの着用は個人の判断に委ねる。審判員は、マスクを着用とする。ただし控室でのマスク着用は個人の判断とする。

大会プログラム

- 1 開会式 (9:20~)
 - (1) 開 会 の 辞
 - (2) 国 歌 斉 唱
 - (3) 優 勝 旗 ・ 杯 返 還
 - (4) 会 長 挨 拶
 - (5) 御 来 賓 挨 拶
 - (6) 審 判 長 説 示
- 2 特別演武 (9:40~) P8を参照
法定之型 (打)石井猛 (仕)谷口茂樹
- 3 試 合 (10:00~) P10~15
 - (1) 個人試合 ①男子の部 ②女子の部
 - (2) 団体試合 (11:40~) P18~25
- 4 閉会式 (17:00~)
 - (1) 成績発表・表彰式
 - (2) 閉会の辞

* ()内の時間は、目安です。試合進行により前後しますのでご注意ください。
* 個人戦の表彰式は、14:00頃を予定しています。入賞者は、アナウンスがあったら参集してください。

御来賓

東京都剣道連盟会長 千葉胤道

元警視總監 伊藤哲朗

大会役員

大会々長	林	直	人
大会副会長	小	侯	二
同上	宮	崎	治
同上	安	部	和
大会委員長	谷	口	樹
大会副委員長	堀	川	央
総務委員長	池	之	真
大会参与	伊	藤	博
同上	江	藤	兵
同上	佐	藤	春
同上	杉	田	明
同上	猿	渡	知
同上	笠	原	俊
監事	浦	瀬	真
監事	黒	須	伸
			夫
			部
			雄
			傑
			之
			彦
			和
			治

大会委員

指	導	員	原	嶋	茂	樹
同	上		大	塚	尚	弘
同	上		横	内	良	道
同	上		永	松	教	孝
事務局次長			森	本	一	夫
同上			澤	野	一	雄
同上			田	鍋	憲	一
衆議院			杉	野	寿	一
厚生労働省			井	上	誠	一
東京自衛隊			本	喜	久	雄
東京国税局			山	田	正	德
東京都庁			戸	口	光	浩
東京消防庁			佐	村		彰
東京特別区			村	藤		透
東京特別区			高	上		若
日本郵政			内	梨		介
東京市町			金	田		行
女子普及担当			大	子		織
(法務剣友会)				里		
				智		
				悠		
				裕		
				史		

大会審判員

審判長 西川清紀

*○印は、主任

【第一試合場】

- 原 嶋 茂 樹
武 藤 一 宏
森 山 正 信
千 葉 昭 二
伊 藤 雄 路
車 田 仁 之
小 林 幸 寿

【第二試合場】

- 坂 口 竹 末
坂 田 敏 郎
東 嶋 忠 久
矢 吹 裕 二
飯 島 利 己
貞 方 美 知
大 里 史 雄
織

【第三試合場】

- 中 村 明 人
浅 野 信 治
雨 宮 尚 一
別 府 さ つ き
辻 村 憲 二
小 関 太 郎
中 野 功 一

【第四試合場】

- 石 井 猛
笹 川 一 文
山 口 和 慶
佐 藤 彰 透
村 上 浩 成
後 木 勇 学
浅 見

【第五試合場】

- 今 濱 雄 二
杳 掛 司 朗
加 藤 喜 一
吉 田 誠
権 瓶 功 泰
柏 谷 幸 二
松 尾 純 子

【第六試合場】

- 西 村 和 美
大 島 浩 直
田 辺 秀 徳
江 崎 和 彦
村 上 祐 司
城 宅 正 博
三

【第七試合場】

- 横 内 良 道
東 原 竜 司
田 口 昌 宏
中 原 重 泉
金 川 忠 頼
安 田 康 雄
藪 貴 志

【第八試合場】

- 永 松 教 孝
中 田 浩 淳
新 村 浩 志
宅 間 秀 紀
山 田 高 志
櫻 井 崇 晴
梅 山 英 隆

【進行担当】

第1・2試合場	澤野一雄
第3・4試合場	草野新
第5・6試合場	川上義幸
第7・8試合場	森川洋一

進行担当は、各会場の進行状況を管理し本部会場総務と連携を図り、試合進行に応じ試合場の変更の調整を行う。
変更が生じた場合、審判主任との調整も行なう。
また、会場記録等の指導を行う。

競 技 役 員

大会 統括 谷口 茂樹 (理事長・東京都庁)
大会 総務担当 池之野 真 (副理事長兼事務局長・農林水産省)
大会 管理担当 堀川 勝央 (副理事長・東京消防庁)

*○印は、主任

* 第一次 (大会前)

【審判会議総務】

- 堀川 勝央 (東京消防庁)
- 澤野 一雄 (東京自衛隊)
- 田鍋 憲一 (東京消防庁)

【役員・審判受付係】

- 村上 和彦 (東京自衛隊)
- 貞方美知雄 (同上)
- 松尾 純子 (同上)
- 小高麻里子 (葛飾区役所)

【会場係員受付係】

- 森本 一夫 (東京自衛隊)
- 本田喜久雄 (同上)

【選手受付・変更係】

- 黒須 伸治 (北区役所)
- 鈴木 茂晴 (葛飾区役所)
- 阿部 孝治 (日本郵政)
- 内田 有介 (同上)

【選手入場・駐車券担当】

- 齊藤 章弘 (葛飾区役所)
- 木村 敬利 (同上)
- (選手誘導)

【救護係】 (救命士)

- 田波 純子 (東京消防庁)
- 大里 文夫 (同上)

【筆耕係】

- 市川 了一 (東京自衛隊)
- 木村 敬利 (葛飾区役所)
- (連絡担当)

* 第二次 (大会時)

【総務係】

- 池之野 真 (農林水産省)
- 小高麻利子 (葛飾区役所)
- 本田喜久雄 (東京自衛隊)
- 田鍋 憲一 (東京消防庁)
- (進行担当)

- 森本 一夫 (東京自衛隊)
- 草野 新 (同上)
- 澤野 一雄 (同上)
- 川上 義幸 (葛飾区役所)
- 森川 洋一 (多摩少年院)

【会場管理係】

- 飯島 光雄 (日本郵政)
- 大村 径 (同上)
- 堺 彩記 (同上)
- 桜庭 阿恵 (協賛)

【記録係】

- 黒須 伸治 (北区役所)
- 鈴木 茂晴 (葛飾区役所)
- 阿部 孝治 (日本郵政)
- 内田 有介 (同上)
- 齊藤 章弘 (葛飾区役所)
- (広報)

【接待係】

- 谷口由美子 (事務局)
- 中原 智美 (東京自衛隊)
- 高久 絢名 (同上)

【試合会場係】

第一試合場 (東京拘置所)

- 井上 賢一 上之園大樹
- 新村 太郎 小林大樹
- 八木 大地 荒川玄暉

第二試合場 (東京消防庁)

- 倉持みつる 飯星幸広
- 吉田 洋 坂口伸吾
- 堀辺 信行 佐野竜也

第三試合場 (東京自衛隊)

- 米村 尚之 中村優子
- 中尾 乾 小湊克裕
- 笠 隼輔 田中勇成

第四試合場 (都庁・法務剣)

- 高野 朋紘 湯浅鼓太郎
- 柴田 若菜 柳村拓也
- 渡邊 百絵 稲垣哲也

第五試合場 (中央省庁他)

- 紺野 哲夫 中屋裕一郎
- 金子 千尋 成嶋伸治
- 島 尚士 安心院実

第六試合場 (東京特別区)

- 大場 修 田中裕紀子
- 草刈 宏 大地貴之
- 土川 翔平 小林寛太郎

第七試合場 (東京市町村)

- 佐藤 友哉 請川翔一
- 杳掛 雅彦 平澤大河
- 麻生 周馬 関根拓朗

第八試合場 (都交通局)

- 近藤 喜隆 宮崎 岳
- 佐藤 雄才 奥山公夫
- 神原 一郎 浅見拓也

【競技役員の担当内容】

1. 大会統括…………… 来賓・招待者のおもてなし。式典全体をつかさどり会場総務係を掌握する。
 2. 大会総務担当…………… 大会全体の進行を担当する。受付部門、選手変更、記録係を掌握する。
 3. 大会管理担当…………… 大会開催中の場内管理、救護・救急等安全面を担当（救急車は、武道館から要請）し、大会完了を東京武道館に報告する等、連絡調整に当たる。
-
- (1) 総務係…………… 各試合会場の試合の進行を管理し、大会総務担当と連携する。
国旗、連盟旗、横断幕の設置及び大会役員、審判長、来賓の席を設置する。
開会式、表彰式の優勝旗、カップ、メダル、賞状等の受け渡しを担当する。
 - (2) 進行担当…………… 各試合会場系のプログラム等、掲示用トーナメント紙、備品等を配布する。
全体の試合進行状況を総務係と共用し各会場進行担当と連携し調整を図る。また、トーナメント表、団体試合掲示等を指導する。
 - (4) 試合会場係…………… 選手の点呼・確認、目印(タスキ)の着脱、計時等試合の円滑な運営に努め、
試合結果等を速やかに記録係に報告する。
 - (5) 記録係…………… 各試合の記録を総括、整理保存する。各種別ごとの表彰者を筆耕担当に
速やかに提出する。
 - (6) 会場管理係…………… 大道場、第一、第二武道場への看板の張り紙を入場後速やかに行う。
大道場への選手以外の入場を規制する。定期的に巡視し、会場内の安全
チェック、盗難防止、ゴミの処理状況等を管理する。
(使用施設のごみの回収、分別及び廃棄は委託会社東洋実業に依頼する。)
 - (7) 救護係…………… けが人等の発生時に速やかに応急措置を行い、大会管理担当と連携し救
急対応する。救急要請が生じた場合、武道館事務所に報告し救急車等
要請する。
 - (8) 接待係…………… 審判会議の湯茶の提供、昼食時に弁当の配布及び湯茶の提供を行う他、
随時、役員控室で接待を担当する。
 - (9) 筆耕担当…………… 賞状は、団体戦、個人戦男子の部、女子の部の各3位までの4枚及び
敢闘賞の各4枚計24枚と予備の枚数を確認する。
また、最優秀賞1名及び東京都剣道連盟杯賞状を確認する。
個人戦の入賞者の表彰式は、14時頃を予定するので筆耕に対応する。
団体戦の表彰式は、決勝戦終了後に速やかに行うので出来るだけ。
優勝、準優勝、最優秀選手賞、東京都剣道連盟杯、3位（2団体）
敢闘賞（4団体）が決定し次第筆耕を行う。
- 連絡担当は、筆耕担当を補佐し入賞者を速やかに知らせ、筆耕完了後速やかに総務係に届ける。また、東京武道館からの電話の対応を行う。
-
- (大会前の役割)
- (1) 審判会議総務…………… 審判員受付係と連携し審判員の点呼及び審判会議の進行に当たる。
 - (2) 役員・審判受付係…………… 正面入口から、審判会議資料の運搬及びプログラム等の配布を行う。
 - (3) 会場係員受付係…………… 試合会場担当の受付を行い、備消耗品を大道場に運搬、担当会場
毎のプログラム等、掲示用トーナメント紙等を配布する。
 - (4) 選手受付・変更係…………… 各団体の受付、プログラム・記念品等の配布及び大会総務係に参加
状況を報告する。また、変更申込書の内容を確認し、各試合会場に連絡
するとともに、記録係と連携する。
 - (5) 選手入場・駐車券担当…………… 入場担当は、靴袋、武道館駐車券の配布を担当し入館時に誘導する。

平成20年11月第40回記念官公庁剣道大会開催の企画として、古流の形演武が決定された。記念大会の演武として法定、五行之形を全国会員に披露することとなった。その後、各古流関係者のご協力のもとに現在も継続して裂帛の気合や妙技を披露している。過去の演武は、法定之形、五行之形、二天一流剣術、警視流木太刀形、柳生新陰流兵法、神道夢想流杖道、鞍馬流剣術等である。今回、「法定之型」を演武する。

直心影流は、五百年以上の歴史ある古流・源流の一つで、流祖は、戦国時代末期の常陸(ひたち)の国、鹿島城主の家老の一人で鹿島神宮の神官であった松本備前守尚勝といわれる。備前守は、日夜鹿島の神前に祈り、剣の奥義を授け給えと願をかける。信心の奇特である夜、夢に神が現れ、一卷の巻物を授け賜った。巻物は、鞍馬山の鬼一法眼より義経に授けられたという、周の大公望の兵法書『六韜三略』の伝書であった。備前守は、是を熟練し剣の奥儀を悟ることになった。この流派の伝承者であり、明治・大正の剣豪山田次朗吉は、「直心影流の真髓、法定之型を靈劍傳(もっぱら)に有る所の右剣左剣より出たる神伝の太刀筋にて、是を『法定(ほうじょう)』と名付けたる也。この法定は、氣合を第一として教えるなり。法定を勤むるには、喜怒哀楽愛悪欲(きどあいらくあいあくよく)の七情を捨て、無念夢想にして勤めるべき也。」と教えている。

法定は、打込みで基本を学び四本の型、一本目「八相発破」で機先を制する修錬を、二本目「一刀両断」で、断ち難き事を一刀両断する修錬を、三本目「右転左転」で事が起きた時に臨機応変にテキパキと処理する修錬を、四本目「長短一味」で、死生不二つまり如何なることに臨んでもそのことに対応する「不動心」を養う。これらを修錬の中で、相討ちの精神、張詰めた精神を学ぶ。

【演武者】

打太刀 教士八段 石 井 猛 (東京武道館剣道師範・元警視庁剣道副主席師範)

仕太刀 教士七段 谷 口 茂 樹 (官公庁剣道連盟理事長・都庁OB・日本武道修錬会)



石 井 猛



谷 口 茂 樹

【古流剣道形研修会】

東京武道館では、剣道のルーツ、日本古来の直心影流之形法定、五行之形の研修会を行なっています。稽古開催日は、金曜日(2回/月)19時～20時30分、当館第二武道場にて実施しています。稽古開催日については、東京都剣道連盟、東京武道館のホームページをご覧ください。

- (注意)① 時間は、目安です。会場によって進行が異なります。
 呼びだし時にいない場合は棄権となりますので、ご注意下さい。
 ② 試合の進行により、会場の変更がある場合があります。
 ③ 昼食時間は設けておりません。各自調整し食事してください。

○試合進行表

予定時刻	種別	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場	第五試合場	第六試合場	第七試合場	第八試合場
1 10:00	男子の部								
	119試合 (120名)	16試合 準決勝	14試合	15試合 決勝	15試合	16試合 準決勝	14試合	14試合	15試合
2 11:00	女子の部								
	66試合 (67名)	9試合	7試合	9試合 決勝	9試合 準決勝	8試合	8試合	7試合	9試合 準決勝
3 11:40	団体の部	13試合	16試合	15試合	13試合	13試合	14試合	14試合	13試合
	111試合 (112チーム)	(x5=65) 14チーム	(x5=80) 14チーム	(x5=75) 14チーム	(x5=65) 14チーム	(x5=65) 14チーム	(x5=70) 14チーム	(x5=70) 14チーム	(x5=65) 14チーム
	団体の部		決勝						
4 17:00	団体の部		決勝						
			準決勝	準決勝					
		90	101	99	89	89	92	91	89

○試合場見取り図

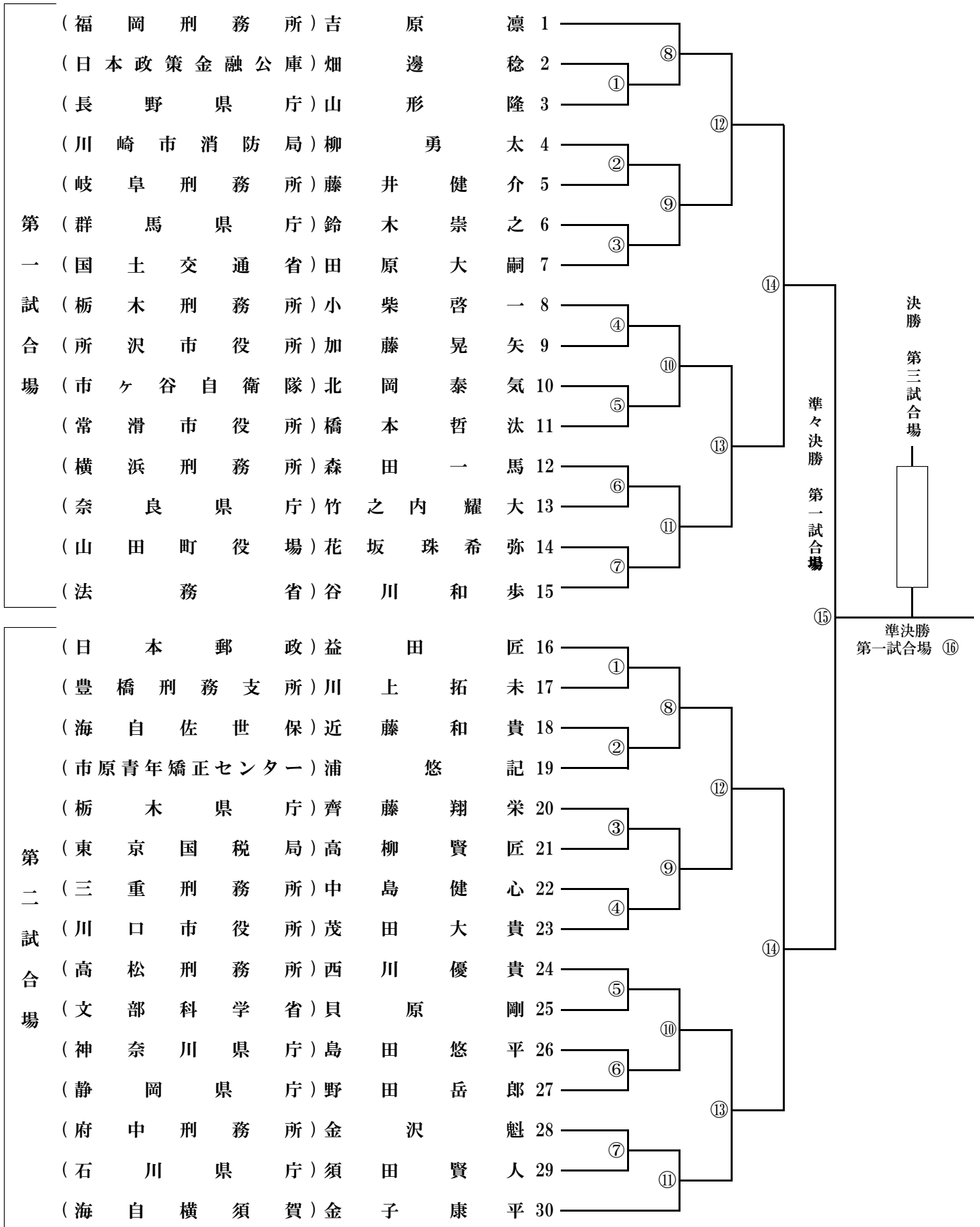
正面



○大道場は、8試合場のため控えのスペースが大変狭くなっています。直近の試合者のみ入場し第一武道場の控えで待機するようにしてください。

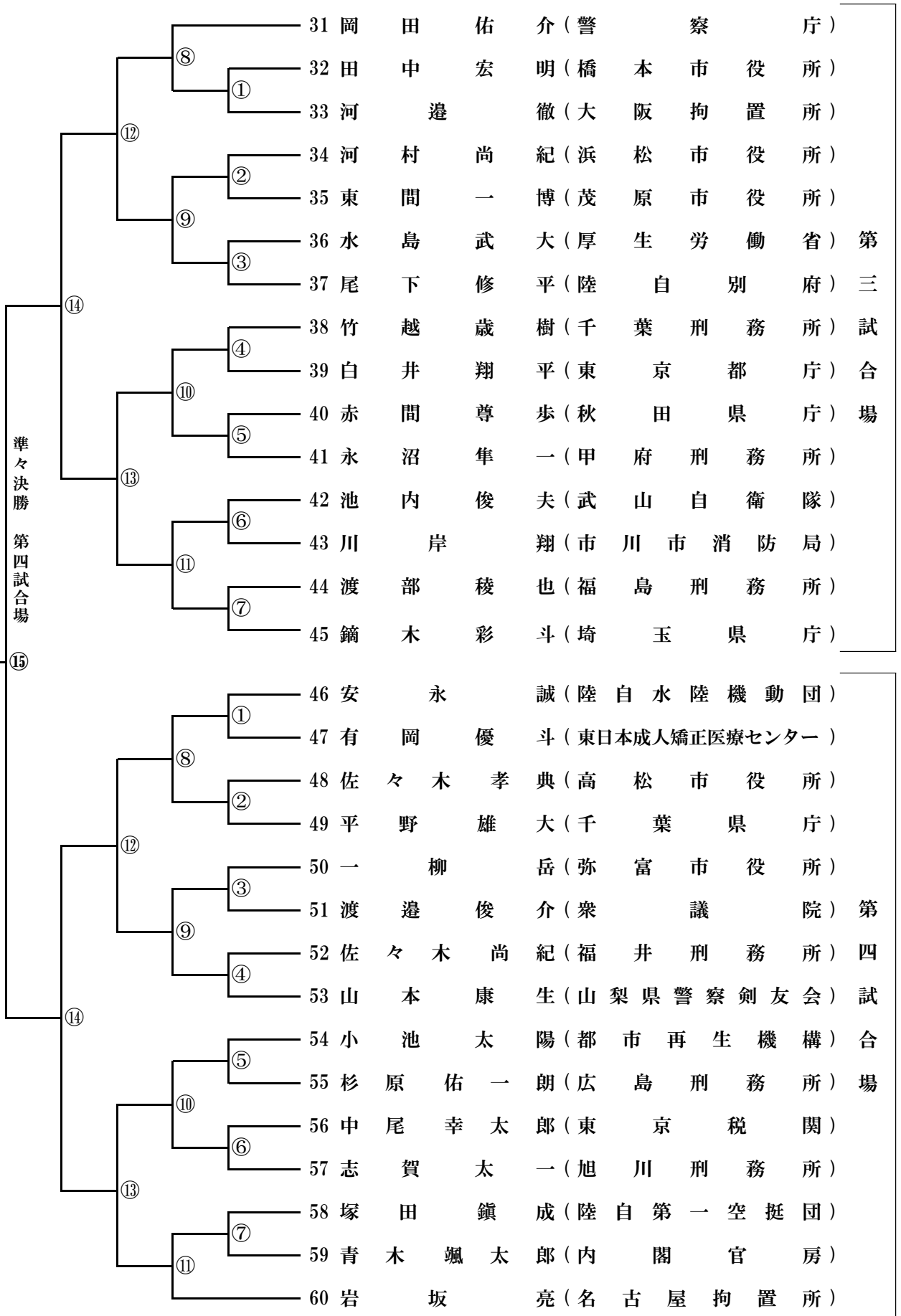
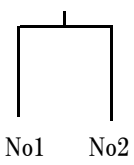
男子個人の部 No.1 (60名)

○試合順の番号は各会場ごとの番号とする。



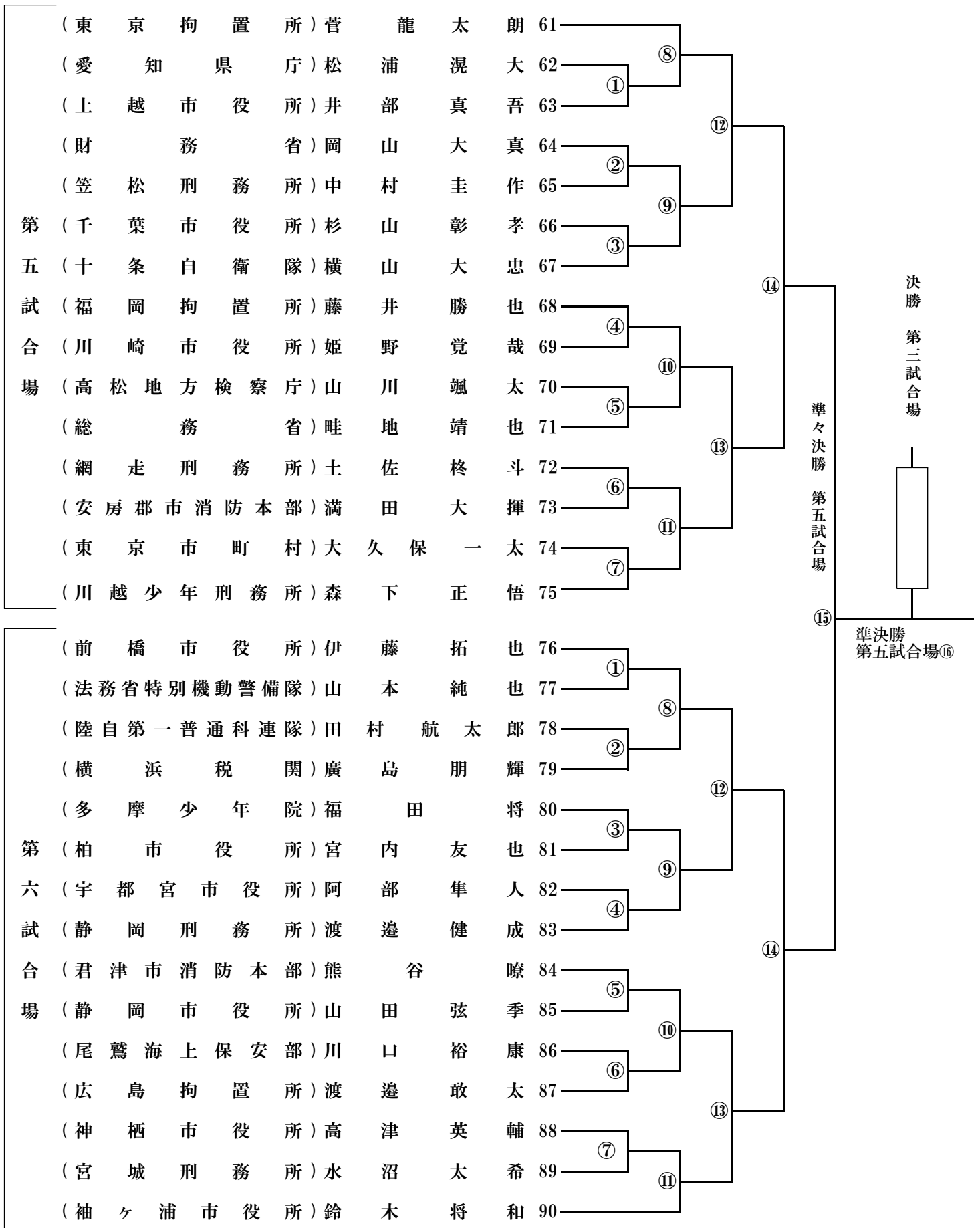
優勝

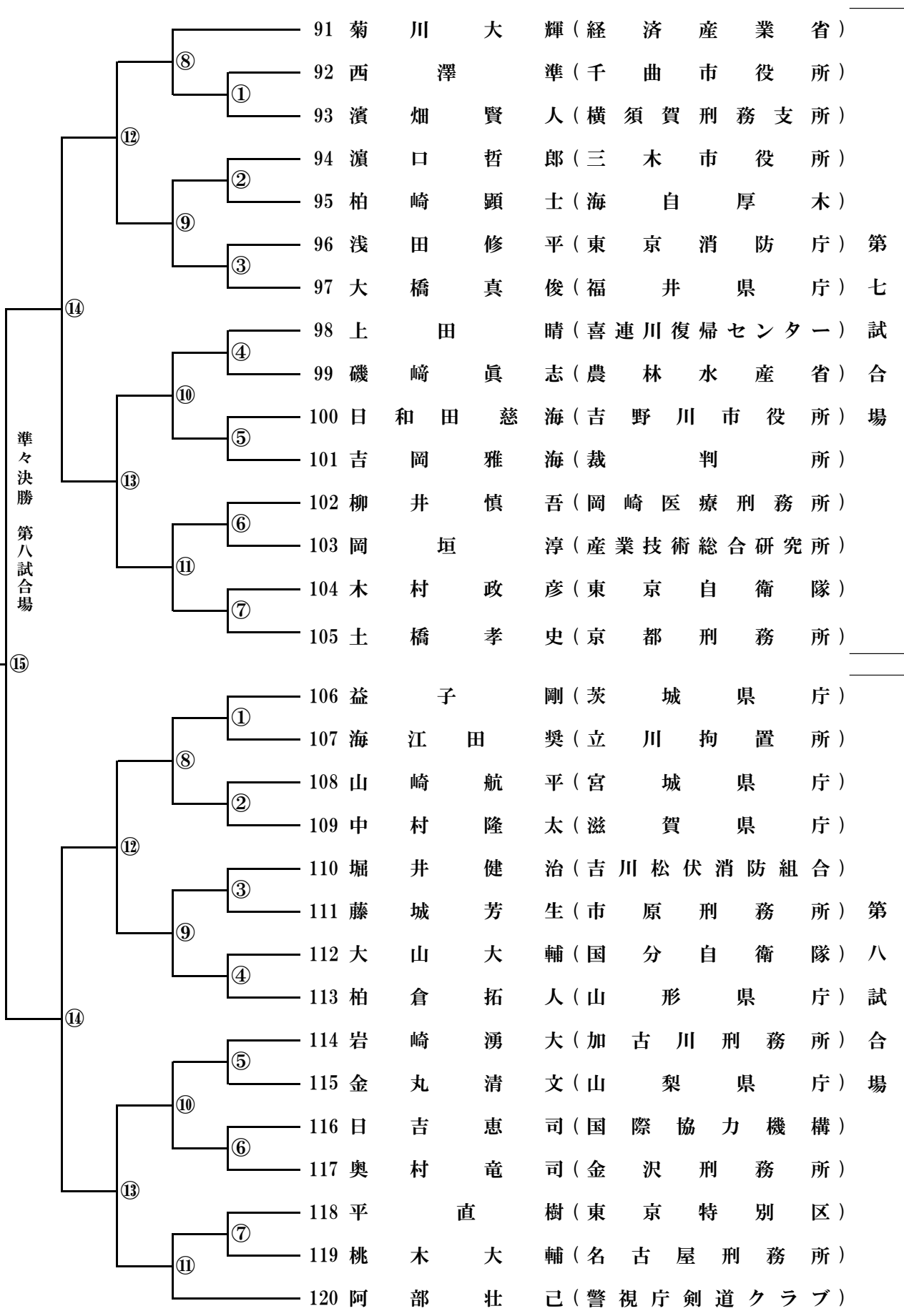
決勝
第三試合場



男子個人の部 No.2 (60名)

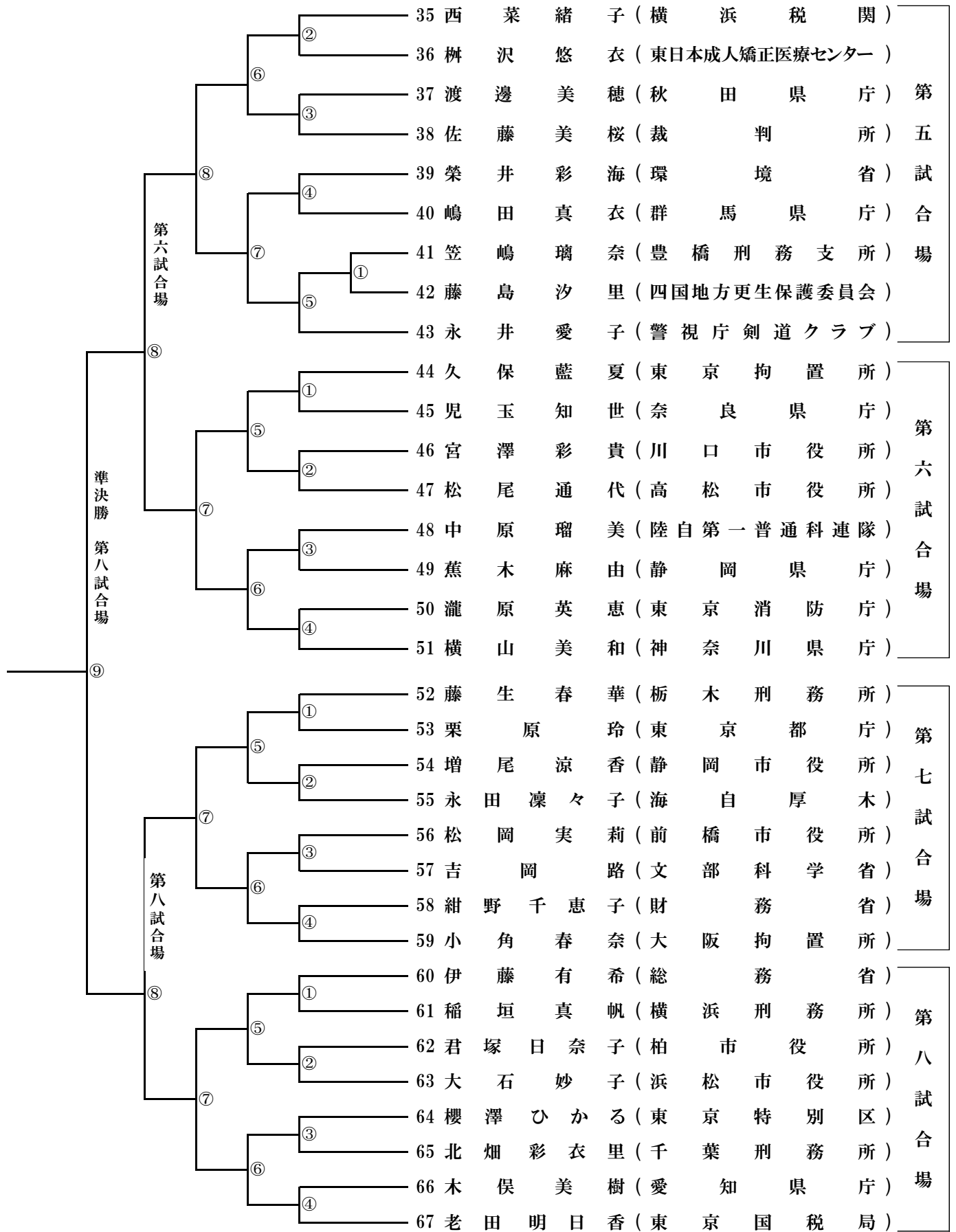
○試合順の番号は各会場ごとの番号とする。





女子の部 No.2 (33名)

○試合順の番号は各会場ごとの番号とする。



団体戦 対戦表

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

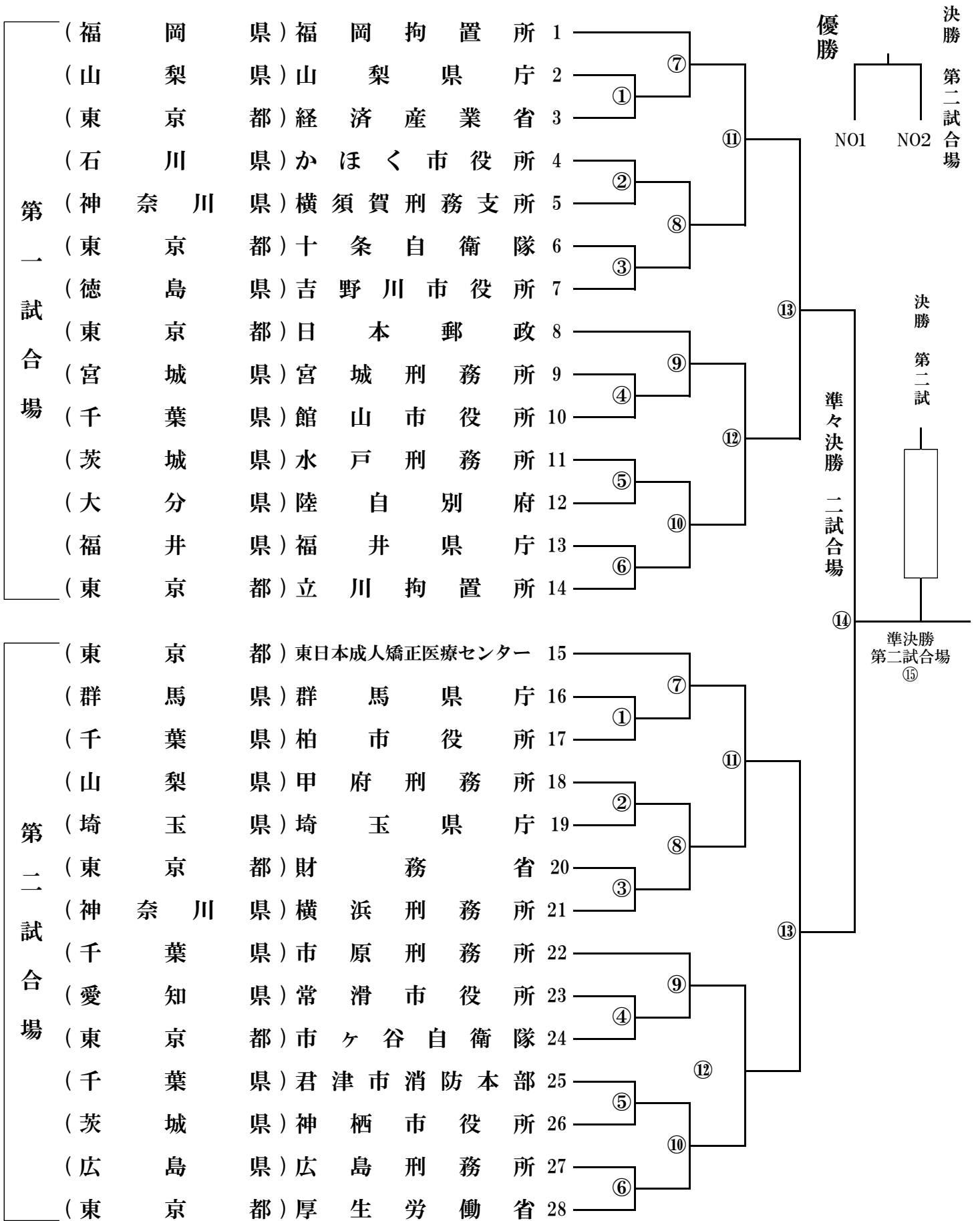
	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

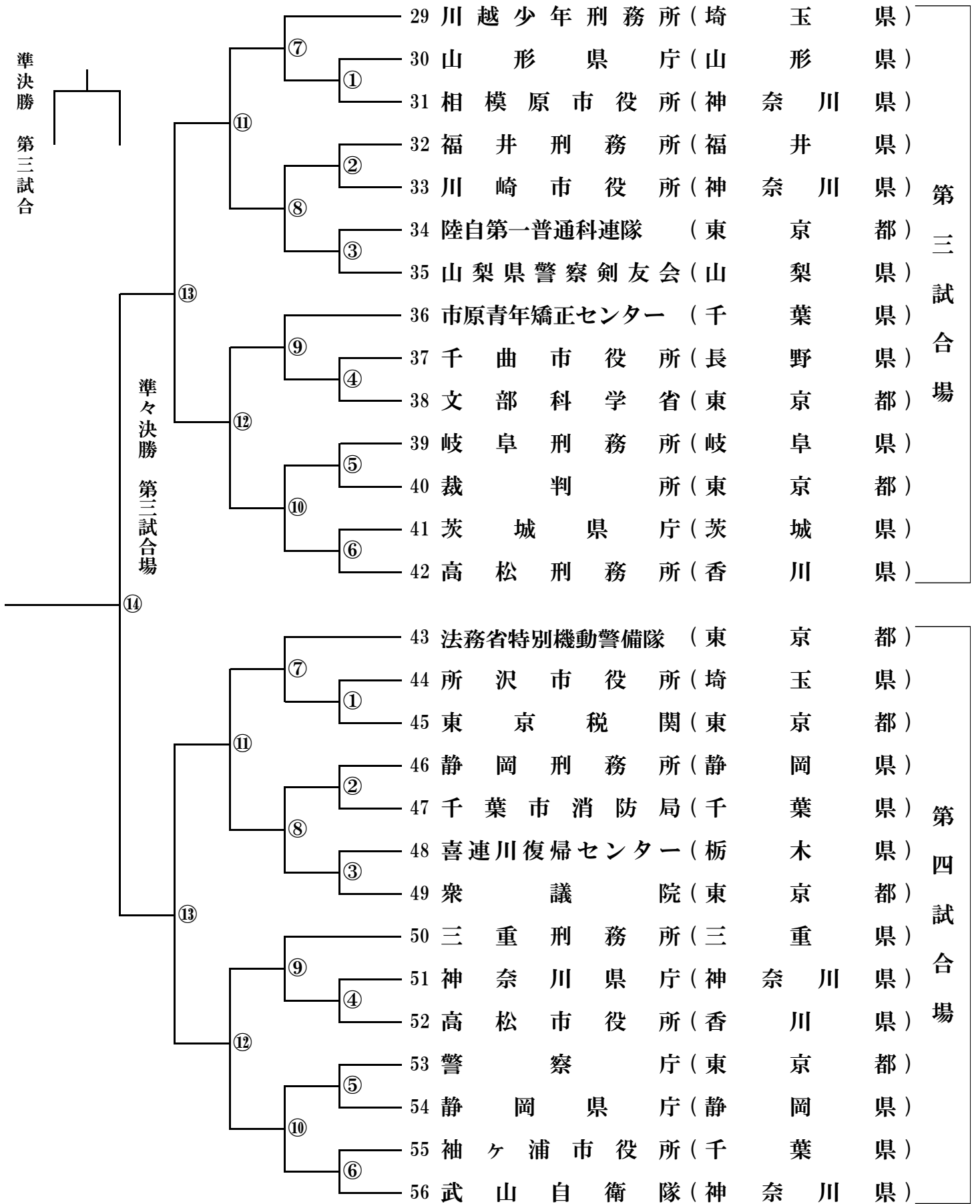
	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
赤							
白							

団体の部 No.1 (56チーム)

○試合順の番号は各会場ごとの番号とする。

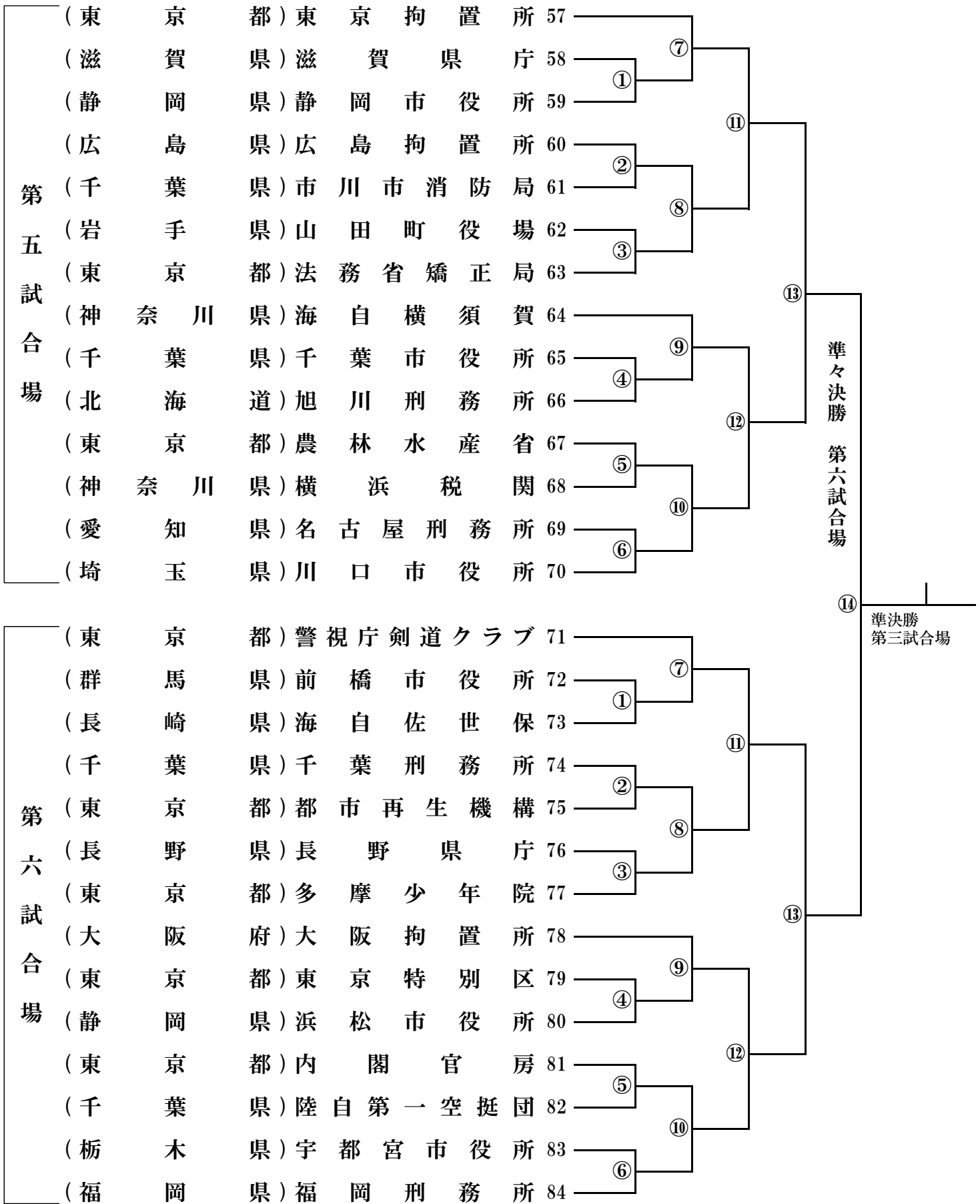


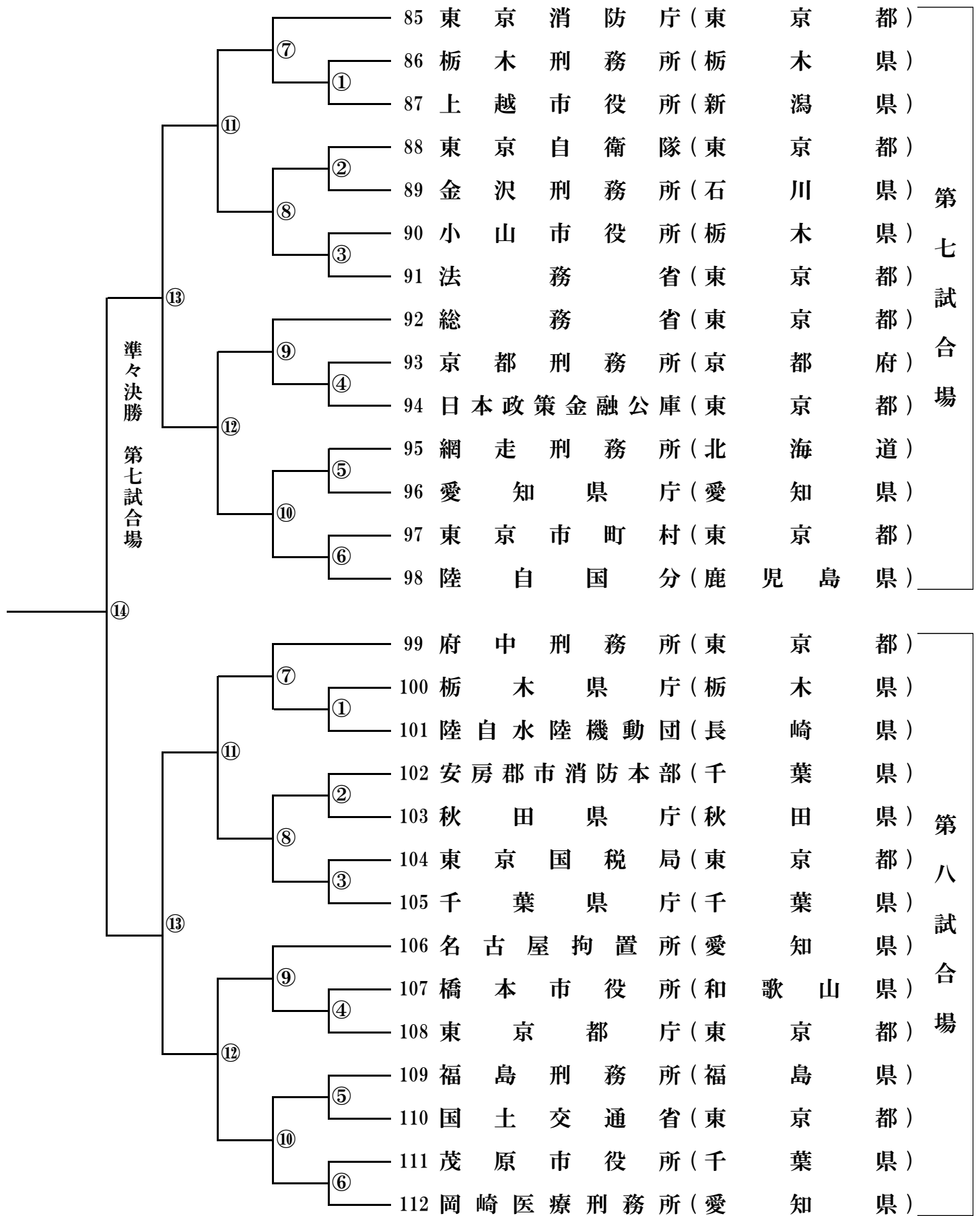
準決勝
第三試合



団体の部 No.2 (56チーム)

○試合順の番号は各会場ごとの番号とする。





【東京武道館のご案内】

所在地 〒120-0005 東京都足立区綾瀬 3-20-1
 電話 サービス係 (03)5697-2111



足立区谷中1-3
 駐車台数 約100台
 * 24時間営業
 1時間三百円30分ごと百円
 * マイクロバスは、駐車場の奥側にとめてください。



東綾瀬公園駐車場

- 東京武道館まで、東京外口千代田線「綾瀬」駅下車 東口から約徒歩5分です。(東綾瀬公園内をお通りください)
- 東綾瀬公園駐車場から徒歩約15分です。

◎会場使用上の注意

- 選手並びに関係者は、フィジカル・ディスタンス（人と人の距離）を最低1メートルできれば2メートルを心掛けて下さい。
- 体温が37.5度以上の者は入場できません。
- 手洗い、うがい、手指消毒をこまめに行ってください。
- 武道館内は土足禁止です。
- 会場内は禁煙です。
- 喫煙は決められた喫煙所をお願いいたします。
- 盗難に注意してください。
- 貴重品は各自手元に置くか、所属団体で管理して下さい。
- ゴミは、所定のゴミ箱に捨てるか持ち帰りにご協力下さい。
- 更衣について、選手更衣は、男子試合者は観覧席、第一武道場及び一階更衣室で更衣とし荷物は観覧席、第一武道場に置いて下さい。
- 女子試合者は、一階更衣室及び第一、第二武道場の和室を使用し荷物は、観覧席、第一、第二武道場の和室に置いて下さい。
- 共用の一階更衣室は、更衣のみとして荷物は置かないように注意して下さい。
- また、荷物を放置し長時間館内からの外室を禁止します。
- 第一、第二道場ともに密集状態にならないように配慮下さい。
- * 以上の注意事項を守り、本大会が成功裏に終了できますようにご協力ください